

国際機関連携無償資金協力

「アムハラ州及びティグライ州における社会インフラ整備計画（UNICEF 連携）」起工式

2024年6月6日（木）、ティグライ州のネガシ小学校において、柴田裕憲駐エチオピア特命全権大使は、ゲタチュウ・ティグライ州暫定知事、カンポ UNICEF エチオピア事務所長及び高野 JICA エチオピア事務所長代理とともに、「アムハラ州及びティグライ州における社会インフラ整備計画（UNICEF 連携）」の起工式に参加しました。式典終了後より、対象となる学校での施設の改修及び再建工事が開始されます。

本事業は、2023年6月に、日本政府と UNICEF の間で署名し、紛争で破壊された教育施設、給水施設、衛生施設の改修や再建のために、10億7200万円（約800万米ドル）の資金供与をしたもので、JICA と協力のうえ UNICEF が事業実施を行います。本事業の実施により、2州の対象地域の児童・生徒約12,000人の学習・衛生環境が整備され、同地域で生活する約48,000人が安全な水を利用でき、水汲みの負担を軽減することができるようになります。

本式典において柴田大使は「日本政府は教育への支援を最重要分野の一つとしており、エチオピア子どもたちへの教育支援も当地の発展のためには不可欠なものである。エチオピアの子どもたちの輝かしい未来と国の繁栄のために、日本政府は引き続き支援する。」と述べました。



銘盤をゲタチュウ知事と柴田大使が設置



ネガシ小学校に通う子どもたち



紛争で破壊されたネガシ小学校の校舎



ティグライ州教育局から被害状況の説明を受ける柴田大使